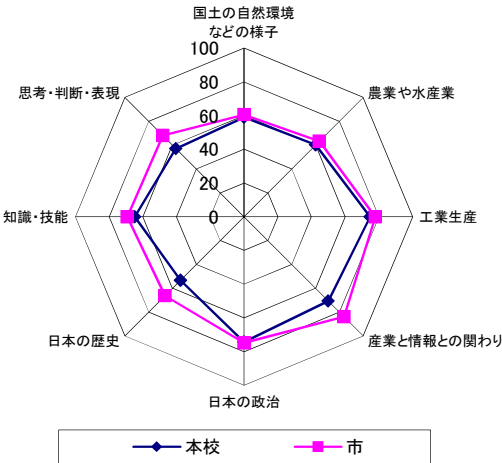


宇都宮市立桜小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	59.0	60.5	65.8
	農業や水産業	60.2	63.3	66.0
	工業生産	74.8	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	70.7	83.8	76.6
	日本の政治	74.4	74.9	74.1
	日本の歴史	53.4	66.3	68.3
観点別	知識・技能	64.8	69.3	71.4
	思考・判断・表現	57.1	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○公害についての設問では、市の平均正答率よりも約13ポイント高かった。 ●海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成について地図をもとに考え、表現する問題では、正答率が市の平均よりも約13ポイント低かった。	○引き続き、日本国内や世界の国々の様子について、日々のニュースなどに関連付けながら興味をもたせ、学習に臨むことができるようにする。また、授業の中で地図を基に考える学習活動を積極的に取り入れ、地図への親しみを高める。
農業や水産業	○食料の自給率についての問題では、市の平均と同程度であった。 ●輸入などの外国との関わりにおける課題についての問題では、市の平均正答率よりも6ポイント低かった。	・農業や水産業についてのキーワードをしっかりと押さえた上で、授業の中で時事的な話題も取り入れながら、外国との関わりについてさらに理解を深めていく。
工業生産	○自動車の部品を再利用する目的についての問題では、市の平均正答率よりも約3ポイント高かった。 ●日本の主な輸出入品についての問題では、市の平均正答率よりも約8ポイント低かった。	・自動車だけではなく、日本の工業生産全体についてさらに理解を深めることができるように、自身の生活と関連付けながら学習していけるようにする。
産業と情報との関わり	●情報の発信と受信の注意点についての問題では、市の平均正答率よりも10ポイント低かった。また、産業における情報活用の現状についての問題では、市の平均正答率よりも約16ポイント低かった。	・自身の生活を振り返らせながら、具体的に日本の情報産業について関心をもって学習できるようにする。他教科とも関連付けながら、知識や理解を高めていく。
日本の政治	○基本的な人権の尊重の基本的な考え方や租税の役割についての問題では、市の平均正答率よりも約4ポイント高かった。 ●議会政治について資料を基に考え、表現する問題では、市の平均正答率よりも約9ポイント低かった。	・日本の政治について、時事問題を用いるなどして興味をもたせながら、復習するようにする。また、租税教室などを有効活用しながら、自身の生活に直接的に関係のある税について改めて理解できるようにする。
日本の歴史	●元との戦いや雪舟、豊臣秀吉の業績についての問題では、市の平均正答率よりも20ポイント以上低かった。	・正答率の低かった設問について、その時代に関する内容を復習するようにする。人物に焦点を当てて、それぞれの人物がどの時代にどのようなことをしたのか、結び付けることができるように教材を工夫する。